



Subaru

男声合唱団 ニュース№520 '15. 9. 2

## 「昴」第 15 回総会開催

8月30日・31日

□8月30日(日)・31日(月)の両日、昴第15回総会が開催されました。30日(日)の団内コンサートが16:30に終了し、「戦争法案廃案・アベ内閣退陣」の全国100万人集会の大阪集会にうたごえで参加したのち駆けつけた団員を含め、新大阪ユースホステルに集合。夕食、風呂のあと、食堂で懇親会を開き、宿泊。翌日31日(月)は同棟の大阪市青少年センターの会議室で午前中に総会、昼食後、同会場で第10回コンサートの第2部の全曲のレッスンを行いました。なお総会及びレッスンの参加者は全36名でした。

### □和やかな懇親会

千秋団長から、今日の団内コンサートの成功を祝し、メンバーの健闘と担当者の労をねぎらう挨拶と乾杯のあと、用意されたビール等も入って、メンバーは元気いっぱい、団員一人一人が、団内コンサートの感想や今日の出来事、近況についての報告や昴への思いなどを語る場になりました。参加者は38名でした。

### □いくつかの感動的な話・傾聴に値する話をランダムに拾ってみると・・・

○今年の新入団員大橋さんから、“昴の歌は素晴らしい！生の演奏に触れることが大切。私は第9回コンサートを聴いて、ここだ！”と思い入団しました。

○団員一人一人の健康管理の問題。昴の団員の課題(義務)として上げられている。自分に合った健康管理。1日1万歩や、毎日1日1時間のウォーキング、テニスやハイキング等身体を毎日動かす。エレベータを使わずに階段を歩く等、自覚的に健康管理を！しっかりと食事を摂って栄養管理を！高血圧・高コレステロールに気を付けて！

○今日の団内コンサートを歌ってみて、人前で一人で歌うことの難しさを痛感する。しかし、ピアノ伴奏で歌う快感。自分に課題を与えてそれをクリアすることをめざして歌う努力。いろいろな曲に巡り合える、レパートリーが広がる、声楽の先生について歌うことで発声の勉強になる等

○今日の団内コンサートは一人一人うまくなっている。優れた歌手としてよく努力している。昨年より良かったと思う。参加者が減ったことは残念。(5名程)

○今年度の団内コンサートでの一番の収穫は各パートのパート曲がどれも良かったこと。よく声を合わせて響かせていた。短期間に良く集中して歌えたことと評価できる。この成果は第10回コンサートに必ず生きてくると思う。

○うたごえでよくいわれている”人の心に響く歌“は歌われたか？難曲も良いが、”人の心に届く歌を“の点から、今日は中谷さんの「城ヶ島の雨」が一番私の心に響いてよかった。

○故橋本邦久さんの遺志を引き継いで、昴を良くしていきましょう！橋本さんは歌を愛された方だった。最後のお見舞いコンサートでの彼が歌う姿、彼の遺稿短歌集『草の実』の最終頁・著者略歴に男声合唱団『昴』団員と載せておられること、彼の生きざまに学ぶところばかりだ。

○団内コンサートが早く終わったので、大阪の集会(2万5千人)のデモ隊の出発を歌声で送り出す1時間も歌えたことは良い経験をした。発行している地域の新聞に今日のこの記事を載せたい。

(例年のごとく、ビールやおつまみを事前に車で運び込まれ、野菜やそうめんをふるまっていた吉田さんに今年も感謝です。謝謝！)

## □活発な討議の総会

□まず最初に千秋団長から” 昇第 10 回コンサートを成功させよう “と開会の挨拶を兼ねて、次のようなメッセージが出されました。

『来年 1 月いずみホールでの第 10 回コンサートは、団創立 15 周年を記念するコンサートでもある。この 15 年間の歴史の上に、新しい出発を開始する、旅立ちのメモリアルコンサートでもある。日ソ協会の部屋をお借りしての練習、興隆園の 2 階での練習、そしてねむかホールでの練習。その度ごとに人数も増えてきた。レッスン内容も深まり、広がってきた。指揮者も 2 人、ピアニストも 2 人、昇が生み出し培ってきた素晴らしい演奏集団である。

第 5 金曜日には声楽家による練習も加わり、充実の度を極めてきている。

残念なことはこの間、つい最近も含め、貴重な団員との哀しい別れをしてきていることだ。

それらの団員の思いも我々のうたに重ね、引き継いで行こう。

昇は一人一人の人生が音楽的に一つの塊の声となって、聴衆に訴える。昇はそれぞれの団員の人生そのものにもなっている合唱団である。

戦争をしない平和な国日本を、世界を、われわれは今うたう。若者も、女性も、とりわけ今を生きる男性も、手をつなぎ、心ひとつに歌おう

この 10 回目のコンサートを節に、新たな未来に向かって、歩みはばたく記念コンサートにし、必ず成功させよう』

□榎本議長を選出し、配布済みの「第 15 回総会議案書」に基づき、「過去 1 年間の活動報告」「これから 1 年間の活動方針」「技術部・組織部・広報部等各部からの報告」「2015 年度役員体制(案)」「財政収支報告と監査報告」等それぞれの報告と共に活発な討議がされました。

□「これからの 1 年間の活動方針」の第 1 に「第 10 回記念コンサートを大成功させよう」のテーマと「レッスンの充実」「特別団員へのていねいな働きかけ」の項目に関して、指揮者及び技術部から問題点の提起がありました。

□指揮者からは、①「いずみホール」で「昇」が歌うことの意義について、クラシック音楽での一番の定評のあるホールが借りれたことの意味をしっかり認識しよう！（昇が信頼できる合唱団であるということが認められたことに自信を持とう！）

②コンサート成功のために、指揮者としてメンバーに訴えたいことの第 1 は、「練習の密度を高めたいこと。1 回のレッスンで終わってその時だけで良しで終わるのでは困る。それぞれの曲の“うたごころ”が表現できているか、”リズム感のある、情緒のある、たくましい男声の声、優しい男声の声を駆使して、いいフレーミングで表現できているか、一度できたことは頭に叩き込んで自分のものにしてしまう努力を！自分はそのようなことはできないとあきらめずに全員ができるよう努力しよう！

③「地底のうた」を特別団員 20 名とともに歌うことの意義とやりがいについて、なぜ今、この歌を歌うのか？その意義を共有しよう。これぞ「地底のうた」だという歌を！今まで以上の迫力・戦闘力・エネルギーを、うたごえの大きなエネルギーをこの歌を聴いてもらって感じてもらおう！そしてこの歌と一緒に歌う特別団員を正団員に迎えることによって、昇がますます活動的な合唱団として文化面で活躍できればと願っている。



□技術部から、「演奏能力の向上のために」大きな役割を果たすべき「技術部活動の強化」について「技術部会の体制の確立と定例化の問題」等を運営委員会・技術部会で具体的な検討をすることが確認されました。また関連して、「パート

レッスンの強化」の問題について、各パートのパートリーダー・パートマネージャーから現状の活動報告とともに、問題点や活動上の悩みについて、また改善点の検討について提起されました。各パートの力量を高めるために重要な役割を果たす「パートレッスン」の課題についても技術部会での検討課題となりました。

□「地底のうた」を一緒に歌っている「特別団員へのていねいな働きかけ」に関連して、月1回のレッスンへのていねいな案内、欠席された団員へのフォロー、彼らの困難な状況の中での合唱活動へのサポート等、いよいよ練習の佳境に入ってきた今の段階に、早急に彼らとの懇談の場を持つことやパートごとの交流をする等、運営委員会で具体的な計画を立てることが要請されました。



□時間内に討議しつくされなかった問題は運営委員会や技術部会・専門部会で深めていくこととし、「過去1年間の活動報告」「これから1年間の活動方針」「技術部・組織部・広報部等各部からの報告」「2015年度役員体制」「財政収支報告と監査報告」「次年度の予算と見通しについて」「男声合唱団「昂」会則」を挙手により満場一致で可決し、新年度の活動も新たに総会の幕を閉じました。

□10回コンサート第2部曲と「春を待つ」をレッスン 午後からのレッスンでは、本並先生の指揮で「山賊のギャロップ」「ドナウ」「白樺」「アムール河の波」「春を待つ」を、伊藤さんの指揮で「ねがい」「なぜ？」をレッスンしました。ピアノ伴奏は森二三さん。総会後の初練習、2日間の疲れも感じさせない集中力でレッスンを終えました。

